

# 自らの手で健康を守る

クルミのような大きさの男性だけにある臓器、「前立腺」。精液の一部を作り、排尿のコントロールに関わっている。名前を聞いたことはあっても、その働きを知っている人は少ないのではないだろうか。

しかし平成27年、国立がん研究センターが発表したがん罹患数の短期予測は、衝撃的なものだった。27年の前立腺がんの罹患数が10年前の約3倍、9万8400人と男性のがんのなかで1位と予測したのだ。

『前立腺がんは怖くない—最先端治療の現場から』(頭川晋著、小学館)は、前立腺がんの第一人者であり、テレビなどでも活躍する、東京慈恵医大泌尿器科主任教授である著者が執

## 最先端治療から術後の影響まで平易に

筆。前立腺がんについて腹腔鏡手術から、冷凍療法など最先端の治療まで、平易な語り口で解説している。手術後の性功能や排尿への影響など、聞きづらい問題も丁寧に説明する。

「性病科と泌尿器科の違い」や「前立腺がんになった有名な人」「何回トイレに行く」と「糖尿」なのかなど身近な話題を取り上げつつ、筆者が繰り返し訴えるのが「自らの手で健康を守る」ことだ。

前立腺がんは「PSA検査」と呼ばれる採血検査で早期発見が可能になり、費用も2千円程度だという。早期発見で治療の選択肢も増え、「絶望的ながんではない」と教えてくれる。

国民の2人に1人が生涯でがんになるとされるなか、「長生き病」とも言われる前立腺がんは、男性にとって無視できない病。治療法を選択する際の医師の考え方や病院選びの方法にも触れており、病气と向き合う一助となる一冊だ。

